

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270700507		
法人名	医療法人社団水澄み会		
事業所名	グループホームはまぼうふう(Aユニット)		
所在地	島根県浜田市久代町1-7		
自己評価作成日	令和4年6月20日	評価結果市町村受理日	令和4年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江上市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和4年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士がよく話し合い、即時解決方法を見つけ、取り組めること。 ・介護量が増えてもケアが行えていること。 ・面会にかかわるご家族と利用者の連絡手段(電話や手紙の活用)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同敷地内に2つのデイ、小規模、通所介護、有料老人ホーム、グループホームがある。ここ数年コロナ禍であり、グループ内でもコロナウィルスの感染を経験しており、限られた職員を調整しお互い助け合いながら乗り切ってきている。現在も家族の面会制限や職員には行動制限を促しながら、厳しい感染予防を継続しながら業務をこなしている。先の見えない中だが、入居者の平均介護度は軽くなり身体状況も安定しており、軽運動や歌を歌ったり、手作業、掃除等できる作業は一緒にしたり、敷地内の散歩の機会を増やすなど、限られた中でも職員が意見を出し合い取り組んでいる。管理者は勤務調整で職員の負担が少しでも軽減できるように工夫したり、精神面の安定に特に気を配っている。職員不足が続く現場はコロナ禍でより一層厳しい状況に追い込まれているが、グループ全体の組織力で乗り切っていたきたい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に添って、地域密着型サービス事業所として、理念を作っており、管理者や職員が理念を共有している。	法人全体の理念に添って事業計画を作成しており、事業方針に基づいた行動計画を個々に手渡し、それぞれが個人目標を作成することになっている。目標が理念に添い意識できるように管理者が面談を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域行事が中止となり、地域との付き合いは減少。	高齢者の多い地域のためコロナウィルスの感染が出たからは地域の行事は殆どが中止となり、今も案内の無い状況が続いている。ボランティア交流も途絶えている。	いろいろな手段を講じて地域との関係性が途絶えないように努めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々への事業所の理解等は、運営推進会議等でしていただけている。ただ、地域のイベントや公民館へ訪問等の活動が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催しており、利用者やサービスの実態を報告し、地域の方々にも、意見や要望を聞き、サービス向上に活かすようにしている。	コロナウィルス感染症の発生状況に合わせて、対面や書面に切り替え調整しながら定期に開催。入居者状況や行事等の報告を行い意見を得るようにしている。民生委員や地区の駐在所、包括などから参加があるが、家族の参加は見合わせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、参加をしていただき、状況をお伝えしたり、日ごろから、何かあれば、連絡をとるようにし、協力関係を築くようにしている。	運営推進会議には包括からの参加があり専門的な立場から助言を得ている。入居者の負担軽減の手続きや後見人制度の利用等で行政との関わりがあり、いい関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないように、常に心掛けて、取り組んでいる。玄関においては、夜勤帯以外は、施錠をせず、入居者の方々が、自由に出入りできるようになっている。	精神科受診の必要な方があり帰宅願望から落ち着かないこともあるが、薬の調整や声掛けを中心としたケアを検討することで対応できている。身体拘束廃止委員会を定期的に行い意識を新たにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待について理解できるよう、勉強会に参加し、事業所内において、常に、虐待の行為がないように、また、見過ごされることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している方はいないが、制度を活用する場面があれば、各関係者と話し合う場を作り、支援できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、1つ1つ丁寧に説明をし、管理者のみで契約するのではなく、職員も入り、家族等の不安や疑問を一緒に聞き、理解、納得をしていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等にて、管理者や職員へ表せる機会があり、また、年1回家族アンケートを実施し、意見、要望を表せる機会を作り、運営に反映できるようにしている。	担当が中心となり入居者の日頃の様子が変わる写真と、字が書ける方には一文を添えて便りを作成している。裏面はユニット全体の行事等の写真を載せて送っている。家族アンケートを含め意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、月に1回の定例会議などで、発言する機会があり、また、半年に1度、個人面談を管理者がし、職員の話聞く機会を設けている。	個人目標の進捗状況や年度末には最終的なまとめに合わせて年2回の個人面談の機会を持っている。管理者はトップダウンではなく職員の中から意見が出やすくなるよう、ストレス軽減に気を配っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、働きやすく、やりがいのある職場であるように、職員の意見、提案を、アドバイスし、実行、達成できるように支援するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場だけではなく、法人内外の研修において、個々の力量や現状を把握した上で、参加し、会議等で、報告できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホーム事業所で、交流する機会を設け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、事前調査にて、ご本人の要望等に耳を傾け、その要望等を、職員全員で共有し、ご本人が、安心して生活を送ることができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも、入居前に、しっかり話しをし、要望に耳を傾け、どのような対応ができるのかを話し合い、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が、どのような支援を求めているかを尊重し、支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理のないように、簡単な食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみなどを提供し、本人の尊厳を守り接し、共同生活の場を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要であれば、ご家族と密に電話連絡を取り合い、訪問されたときは、必ず、ご本人の情報交換をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月のお便りの発行や電話でのご家族・ご本人のやり取りは継続している。	懐かしい場所への外出はできない状況にあるが、昔の料理やお菓子作りの機会を持つようにしている。誕生日には家族に何かしらお祝いしてもらおうにしたり、受診に連れて行ってもらうようにして関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手作業等、グループで行って頂き関係作りに努め、利用者同士のトラブルがある場合は、職員が間に入り、関係を築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切にしながら、何かあれば、「連絡をください」と関係を断ち切らないように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言動を確認し、ご本人の想いに沿った(夢や希望)企画作りをしている。また日常の変化について、その度連絡をし、ご家族の意向を伺っている。	入所以前の生活から、関わってきたことや興味のあること、好きだったことなど計画に繋げるようにしている。何かしたい、手伝いたい等が叶うような環境、場面を作るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報、ご本人との会話の中から把握し、面会時などに、ご家族に、お話を伺い把握に努めている。また、ケアマネなどからも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録やカンファレンスでの話し合い等で、一人ひとりの生活リズム、健康状態の把握に努め、一人ひとり思うように過ごしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見や要望を取り入れ、職員同士で話し合い、必要であれば他職種との連携を図り見直し、作成している。	定期的なモニタリングを行い計画の変更に繋げているが、コロナ禍で家族等の参加が難しいため、集合しての担当者会議を開催できていないが、電話等で意見を聞き職員間で開催し、了承を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアプランに添った記録をしている。気付いたことは、カンファレンスで話し合い、情報の共有を行い必要であれば見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスで話し合い、ニーズに変更があれば、支援を変更し対応している。また、一人ひとりにあった、外出方法、買い物支援を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を、ご本人やご家族より確認し、安全で豊かに暮らしを楽しめるように支援、努力するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族に説明をし納得された上で、かかりつけ医と関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に1回、定期的な往診可能な協力医に変更することも、家族対応で今までのかかりつけ医を継続することも可能になっている。夜間や緊急時の対応が可能な協力医に変更する方が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、何かあれば、管理者へ相談し、連携看護師への情報共有に努め、必要時はかかりつけ医へ連絡、相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必ず、ご家族と主治医の面談に同席させていただき、病状の把握をさせていただいている。また、退院に向け、病院の相談員に定期的に連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご本人やご家族に終末期のあり方について説明をし、確認書を用いて、身体の変化、急変時に対応するようにしている。また、体調変化があった場合、ご家族に連絡し、ご本人の状況も説明、ご家族の思いに添えるよう取り組んでいる。	以前数件の看取りを行ったこともあるが、平均介護度は軽くなってきている。母体の法人には多くのサービス事業所があるため、現状に合わせての利用が可能で、相談の上で適した場所を紹介することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていないが、マニュアルや急変時の連絡方法等を目のつく所に置いて対応するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	敷地内で、避難訓練を実施している。	以前は敷地内のサービス事業所合同で訓練を実施していたが、コロナ禍の為グループホーム独自で行っている。事業所が多い為夜間でも人数確保が可能だが、主に夜間想定で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定しない言葉掛け、その方に合った対応、敬語はもちろん実践しつつ、名前はきちんと呼び、居室の出入り、戸を閉める等、プライバシーにも心掛けている。	声かけの際の方言や丁寧語等の使い方には注意している。身体拘束や虐待を含めた接遇研修を計画的に実施している。コロナ禍の為研修は全部オンラインで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から思いや希望を聞き、行事で、短冊や絵馬を書いていただき、本人の希望や思いを知るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、日常の過ごし方など、本人のペースで行っていただいている。手作業やお手伝いなど、本人の好まれることをしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でボタンをとめていただいたり、ボタンの掛け間違いがないか等、身だしなみに気をつけている。また、毎日同じ服を着る事がないよう配慮し、職員と一緒に選び、本人の好みの服を着ていただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を献立に反映し、利用者と一緒に食事作りを行っている。また、配膳、下膳も、利用者にお手伝いしていただき、食事前には、運動をしていただいている。	食材を洗ったり、一部調理に参加したり、配膳下膳等できる作業は一緒にしている。メニューに合わせて職員が買い物に行き作っており、暖かい物を食べることに、おいや味を感じてもらうことを大切に考えている。ミキサー等特別食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた献立表を使用し、食事量も個々に調整し、提供している。水分チェックを行い、ゼリー、好まれる物での水分を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行い、必要時は職員介助で清潔を保っている。また、週2回、入れ歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間も定期的なトイレ誘導を行い、個々に合った自立支援をおこなっている。また、排泄表を作成し、一人ひとりの排泄パターンの確立に努めている。	重度でおむつ使用の方は定期的な交換で対応。布パンツ、紙パンツ使用の方は、尿量によってパットを使い分けたり、声がけ、見守り、介助の必要な方など個々に合わせた対応をとっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をチェックし、少ない方には水分を提供し、運動、腹部マッサージを行っている。また、主治医へ相談し、必要な方には下剤を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態に合わせて、時間帯、曜日を考えながら、入浴を提供している。場合により、清拭による支援している。	大きめの家庭浴槽ではあるが、重度で中に入れない方は2人体制のシャワー浴で対応。週2回入れるように調整している。遅い時間帯や夜間入浴には対応できないが、ゆっくり入れるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に安心して休んでいただけるように臥床場所(リビング、和室等)も状況にあわせて支援し、居心地のいい場所作りも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の作用、副作用の確認ができるようにしている。薬が変更になった場合、変化を見過ごす事がないよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩などで楽しみを増やすように心掛けている。また、手作業を提供し、役割を持っていただくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員との散歩程度しか出来ていない。	コロナ禍の為外出の機会はかなり減っているが、車から降りず、桜や紅葉狩り等の季節的なドライブに出かけている。事業所の敷地が広いので数人ずつ、気分転換に散歩の機会を多く持つようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる方には、所持をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が要求される時には電話を使用させていただき、手紙のやり取りや、携帯の持参により、電話使用の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節を感じられる物を共有空間に飾っている。夏の日の光にはカーテンをし、また温度調節にも気を配り過ぎやすい空間作りに努めている。	道路に近い建物ではあるが、騒音は気にならない。窓から外の景色が見え季節を感じることもできるが、手作業で季節に合わせた作品を作り飾って楽しんでいる。食堂から続いた廊下も広く動きやすく、くつろげるようにイスやソファを配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内での空間を利用し、気の合った同士で過ごしたり、一人で過ごせる場所を構え、過ごさせていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の意見を取り入れ、ご本人が居心地良く過ごせるように、写真や、馴染みの家具などを置き工夫している。	家で使っていた物の持ち込みを薦めており、ベッドやタンス等大きい物を持って来る方がある。部屋にはクローゼットがあるため、多くは置かれていないが、テレビ、イスやテーブル、物入などを置いたり、家族写真を飾ったり落ちつけるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室掃除を見守りのもとしていただき、環境では、誘導時の導線に物を置かないようにしている。また、居室、トイレには、分かりやすく名前などを書いている。		